

様式3号(第5条関係)

東松島市議会議員

小野 幸男 様

令和4年2月15日

(会派名) 松桜会

代表者氏名 小野 恵章

会派活動実施報告書

東松島市議会政務活動費をもって、下記の会派活動等を実施したので、報告します。

1 会派活動の項目(該当を○で囲む)

調査研究費、研修費、広報費、広聴費、要望・陳情活動費、会議費

2 活動名称: 松桜会視察研修

3 実施期日: 令和4年1月21日(金)～令和4年1月22日(土)

4 活動成果: 宮城県刈田郡蔵王町の農業、観光振興の現状と特性、宮城県柴田郡村田町(道の駅村田)を視察研修し、会派として知見を深めることができた。

詳細は、別紙各町の項目を参照。

5 添付書類: 報告書、資料



蔵王町視察研修

日時：令和4年1月21日(金曜日) 13:00～17:00

場所：蔵王町役場

対応職員：村山議長、鈴木議会事務局長、加藤農林水産課長

視察概要

蔵王町は、宮城県の南西部に位置し、東は村田町、西は蔵王連峰を境に山形県、南は白石市、北は川崎町に接しています。海拔の最高は西端の屏風岳で1,825m、最低は南東部の松川と白石川の合流点で20m。町面積は152.83km²で約60%は山林原野です。人口11,490人、世帯数4,522世帯の町です。

1 農業施策の手法について

蔵王町の農業は「果樹面積率が高いこと」が特徴で、県全体の約2割を占めており、逆に水田割合は、ほかの市町村に比べてあまり高くない。海拔20mから100mは、水田農業、海拔100mからは果樹や畑、海拔350mからは畜産や高原野菜等を生産している。近年は、「地産地消の推進」や「農畜産物の蔵王ブランド化」、「6次産業化」を積極的に展開しており、より付加価値の高い生産を目指している。

特に「梨」や「蔵王はるか(りんご)」、畜産のJAPANX(豚)や「蔵王爽清牛」などは蔵王ブランドとして、ふるさと納税の返礼品としても、大変人気となっている。

その一方で、温暖化による世界的な気候変動の影響により、昨年4月には、蔵王特産の梨が凍霜害に遭い、生産農家に甚大な被害を受けた。69haのうち約8割の55haに及び、被害金額は3億2,556万円になった。

(1) 有害鳥獣の対策について

有害鳥獣による農作物被害が増加し、対策としての捕獲数も激増している。対策の取組として電気柵等の購入に要する経費の一部助成や平成26年には、捕獲したイノシシを町内で解体処理できる解体場を建設した。

ア 取組のきっかけ

蔵王町では、平成23年以降イノシシの生息域が急速に県南部地域から北に拡大、当面の農作物被害が重大なものとなるとともに(平成22年:2,080千円、平成26年:6,559千円)、有害鳥獣によるイノ

シシの捕獲頭数が激増(平成22年:18頭、平成26年:153頭)。これにより発生するイノシシの処分方法については、解体処理後に焼却及び現地埋設により対応していた。

蔵王町を含む仙南圏域の2市7町では、捕獲した有害鳥獣の動物残渣の処分については、広域行政事務組合に委託している。しかし、同組合には、イノシシ1体をそのまま焼却処分できる施設ではなく、同組合の焼却施設の能力内の大きさに解体する必要がある。

イ 取組の内容と特徴

○設置場所周辺住民説明と合意

解体場については、一般に迷惑施設として考えられており、設置場所の選定、施設の形状及び管理方法等については、地元住民と十分な対話を行った。この対話を通じ住民から出された意見及び要望を反映し事業内容を決定した。

○有害鳥獣解体処理施設の概要

- ・解体場の処理能力:1日600kg
- ・解体場の概要:平成27年3月17日完成、平成27年4月1日から運用開始
- ・敷地面積:609㎡、建築面積:68.32㎡(敷地は、町有地)
- ・事業費:16,719千円(内交付額:7,534千円)
- ・年間稼働コスト(令和3年度予算):1,253千円
- ・蔵王町鳥獣被害対策実動隊:5隊、46人(令和3年4月1日現在)

ウ 課題と今後の展望

現在、解体処理した野生獣類の肉については、焼却処分しているが、将来において野生獣類の肉の放射性物質の濃度が低下した場合、ジビエ等、食用での活用を検討したい。

(2) 体験交流活動の推進について

コロナ禍の折、首都圏への修学旅行等が難しくなっていることから、郊外での体験学習の意識が高まっており、蔵王町での「農業体験」や「畜産加工体験」、「自然体験活動」や「工芸体験」など、日帰りや宿泊を伴う小中学生等の体験学習プログラムとして、仙台市や北関東からの修学旅行生も多くなっている。

2 観光振興、観光推進を図る取組について

令和3年度の状況について

令和3年3月から続く新型コロナウイルス感染症の感染者が増加傾向のピークを迎え、4月5日から5月11日までまん延防止期間とな

り、さらにオリンピック終了後の8月20日から再びまん延防止期間となるなど、途中緊急事態宣言を含め、9月30日まで42日間続いた。その後、1か月間のリバウンド防止期間を経て、11月からは通常の状態に戻った。この間、4月開催の「雪の壁ウォーク」に始まり、秋の「梨まつり」や「産業まつり」までの長期間にわたり、ほとんどの事業やイベントが中止になった。この影響で観光客や宿泊数も激減したことから経営状況が非常に厳しい事業者に対し、国の様々な支援事業を実施した。10月からは、観光誘客事業を再開し、宿泊割増キャンペーンや宿泊特典キャンペーンなどを展開し、県の宿泊割の後押しもあり、11月、12月の宿泊客数を大きく伸ばした。冬季の事業として宿泊者を対象に「無料リフト券」や「雪乗車無料券」を配る事業も展開している。

参考

年別	H29	H30	H31 (R1)	R2	前年増減	前年対比
観光客入込数	1,674,469	1,578,865	1,641,621	1,091,490	△550,131	66.5%
宿泊客数	338,242	261,726	284,734	147,050	△137,684	51.6%
外国人宿泊数	9,665	10,499	21,093	8,900	△12,193	42.2%

令和3年度の主な取組施策

○地域商業活性化事業

- ・飲食店応援事業（1世帯当たり5,000円分の食事券を配布）
- ・小売店等応援事業（1世帯当たり3,000円分のクーポン券を配布）

○宿泊施設応援事業

- ・遠刈田温泉旅館組合「割増宿泊券」（10,000円で13,000円分）
- ・ペンション等宿泊施設「宿泊割引券」（1人2,000円分割引）
- ・宿泊特典応募キャンペーン（抽選で蔵王町の特産品をプレゼント）
- ・スキー場支援事業（宿泊客にスキーリフト券又は雪上車無料券を配布）

○観光誘客にぎわい創出事業

- ・ダイレクトメール事業（亘理町、山元町、丸森町、福島県相馬市、新地町の約4万世帯に「蔵王町おでかけブック」を発送）

○報知新聞蔵王町広告掲載事業（関東版：青森県～静岡県80万部に観光PRを掲載）

○冬季観光誘客広報宣伝事業（テレビ、ラジオ、新聞、JR仙台駅内デジタル広告で蔵王町を宣伝）

3 所感

蔵王町の農業は、水稲単作経営より立地条件を活かした畑作や果樹、畜産等の複合経営が行われている。今後の本市の農業振興に多いに参考になった。また、有害鳥獣対策についても、目立たない場所、一見して解体場と分からない建物形状であり、注意を引かないゴミ搬出方法などの解体処理施設を建設し、適正に処理している点は、今後、本市の有害鳥獣対策の参考になった。

観光においては、蔵王連峰を始めとする観光スポットが豊富で、滞在時間をコントロールし宿泊に結びつけている。本市は、観光スポットが少なく、滞在時間をコントロールできず、宿泊客数は、伸び悩んでいるので、この視察研修で得た知見を今後の本市における観光、産業振興に生かす提言をしていきたい。

村田町視察研修

日時：令和4年1月22日(土曜日) 11:00～13:30

場所 道の駅 村田

視察概要

村田町は、蔵王山系の東側に位置し、周囲を標高200m前後の丘陵に囲まれており、町内を白石川支流の荒川が南流し、これに新川・沼田川が合流しています。中央部は概ね平坦地で、村田地区には市街地が形成されており、市街地南部は水田地帯となっています。町面積は、78.38km²で、人口11,501人、世帯数は3,764世帯の町です。

道の駅「村田」は、みちのく宮城の小京都「蔵の町村田」と呼ばれる豪勢な蔵が立ち並ぶ村田町中心部に位置し、東北自動車道の村田町インターチェンジに近接しています。村田町のイメージにあった蔵風の外観で、農産物をはじめ地場産品の販売を行っている。

営業時間 9:00～17:00(駐車場、トイレは24時間利用可能)

休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は、その翌日)

12月31日～1月2日

駐車場 普通車:50台 大型車5台

トイレ 22

身障者設備 トイレ:2 駐車場:4台

電話 1台(24時間利用可能)

店舗・売店 農産物直売コーナー

地場産品展示販売コーナー

営業時間 9:00～17:00

レストラン 営業時間 11:00～17:00

休憩所 無料休憩コーナー

営業時間 9:00～17:00

情報コーナー インターネットによる地域情報の提供

営業時間 9:00～17:00

・所感

道の駅「村田」は、小高いところにあり眺望が良く、インターチェンジに隣接し、外観も町のイメージに合わせるなどの工夫がみられる。また、同じ、敷地内に村田町歴史みらい館があり、滞在時間をコントロールできるメリットもある。村田町では、そら豆が特産で、そら豆を活用した、うどん、そば、アイスクリームもあり、農産物、土産品も豊富で、人の入込も多かった。本市でも、令和6年度完成を目指して、道の駅構想もあるが、滞在時間をコントロールできるような工夫が必要と感じた。今回の視察研修で得た知見を生かす提言をしていきたい。